

伸び悩み 足踏み状態で成長できない人の特徴と改善策

原因

- ・行動量の不足
- ・動き出していない
- ・成長に必要な3要素の1つ「行動量」が意識から抜けている、もしくは、行動量の積み重ねを嫌っている

伸び悩み 足踏み状態の人は「質問」で分かる①

質問の主旨が

- ・何をすればいいですか？
(どうすればできるようになる？ どうすれば思いつく？ どうすれば・・・？ 等々、抽象的かつ大雑把。質問の的が定まっていないことが多い)
⇒進むべき方向（成長のための努力の方向や、種類）を自ら考えず、人に委ねてしまっている
⇒安易に正解を探しているため、正解を知っても、それが多くの行動を必要とするなら、行動しない

伸び悩み 足踏み状態の人に欠けている視点

成長のために必要な要素は3つあります。

- ①努力の方向性
- ②努力の種類

に加えて、「①②の前提となる」

- ③ 行動量（行動件数）

があります。伸び悩みや、成長足踏み状態の人の多くは、「③行動量（行動件数）」が、思考から抜けています。努力の方向性と種類が正しくても、成長に必要な行動量（行動件数）をこなさない限り、成長は不可能です。

伸び悩み 足踏み状態の人は「質問」で分かる②

- ・どうすれば成長できるか？ について自ら考えている
- ・成長するためには「行動量（行動件数）が必要」であることを理解し、既に相当量の行動を積み重ねているこの2つができていて人だけが「本気で成長を目指し、成長のために努力している」と言えます。

※中途採用で異業種にチャレンジして失敗するケースは、この部分の不足が圧倒的多数

このレベルに至った人からの質問は、

「何をすればいいですか？」ではなく

「〇〇を目指して、今、〇〇〇を〇〇〇くらいやっているのですが、これで間違っていないでしょうか？」

と、自身の努力の方向性・種類、そして努力の“量”が、正しいか否かを確認するための質問になります。

また、既に具体的に行動しているため、質問の的が絞れていてかなり具体的です。

自分で考えて行動している人は、努力の方向性が正しければ、その継続で成長しますし、たとえ努力の方向性がズレていても、軌道修正すれば成長できます。但し、努力の方向性の正誤に関わらず、努力量（行動量・行動件数）が足りない場合や、未行動の場合は、質問することが成長に繋がらないでしょう。

「ちょっとしたアドバイスで成長できる人」というのは、

実は、既に成長のための努力を開始（行動件数の積み重ねを開始）している人です。

※多くの人は、未行動か、行動件数が不足しているため、方向性を修正しても成長できません

※遅れてスタートする場合（大人の異業種チャレンジ等）は、経験者が数年間かけて習得した力を数週間や数カ月の短期間で習得を狙うため、成長のために必要な行動量は、新卒新入社員等より、かなり多くなります